様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 １２ 日現在

機関番号：１７３０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2011～2014
課題番号：２３６６００１１

研究課題名（和文）看護師の内的成長とウェルビーイングを促進するモデル構築と検証に関する研究

研究課題名（英文）Investigation of Factors Affecting Personal Development and Well-Being of Hospital Nurses.

研究代表者
星　美和子（HOSHI, Miwako）

長崎大学・医歯薬学総合研究科(保健学科）・准教授

研究者番号：７０４３３１３３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、病院で働く看護師205名を対象に、Self-Transcendence理論をベースとして、看護師としての脆弱性、自己超越性、ウェルビーイングと個人的因子の関係性を検証することで、看護師が成長する過程における自己超越性の役割及び成長に影響を与える因子について明らかにすることを目的に調査を行った。その結果、特に心理社会的自己超越性が、看護師のウェルビーイングの指標である自尊感情、看護師としてのコンピテンシー、バーンアウトと強い関係性があり、個人的因子としての情動知能が心理社会的自己超越性と強い関係があることについても明らかになった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to investigate relationships among vulnerability, self-transcendence, and well-being variables as well as to examine how emotional intelligence, as a personal factor, would affect self-transcendence. A convenience sample of 205 nurses were recruited from 3 hospitals located in a city of western Japan. The results indicated that there were significant relationships between self-transcendence and well-being variables such as self-esteem, nursing competency, and burnout. In addition, emotional intelligence had a moderately strong significant relationship with self-transcendence. The findings of this study provided an evidence of applicability of the self-transcendence theory to Japanese hospital nurses and also implied the importance of emotional intelligence as a personal factor on influencing the process of self-transcendence.

研究分野：基礎看護学、看護管理学

キーワード：ウェルービーイング　看護師　自己超越

１．研究開始当初の背景

安全な看護サービスの提供や医療の質の維持に多大な影響を及ぼす看護師の離職については，国内外を問わず多数の調査が実施され，その原因や対策についても様々な報告がなされている。新卒看護師の離職についてはとりわけ注目が高く，早期離職を防ぐために、看護実践力の向上が声高に叫ばれている。しかしながら、新人看護師の離職の原因のひとつとして、現在の若者の精神的な未熟さが指摘されており、技術的な実践力の向上だけで離職を防ぐことは困難であり、個人の内面的成長を促すことも不可欠である。

人間の発達や成長という見地から、Self-Transcendence（自己超越性)という概念が、ここ 20 年ほど欧米の研究者達の注目を集め、主に精神面での健康維持に有益な影響をもたらすことが明らかになり（Erikson、1986;Frankl、 1963)、看護中範囲理論である自己超越理論も提唱されている（Reed、1991)。自己超越に関しては、終末期や慢性疾患を持った対象や経済的弱者を中心に欧米で研究が進められているが、看護職を対象とした研究もいくつかあり、Self-Transcendence がバーンアウトを防ぐ内的資源となることや職務の取り組みへのモチベーションとなることも明らかになっている（Hunnibell、 2008；Palmer et al.、2010)。しかし、それらの研究の対象者は集中治療室やホスピスで働く看護職を対象にしたものであり、専門職として脆弱な状態にある新人看護師や一般病棟看護師を対象として、この理論を応用した研究は、国内外では見当たらないのが現状である。

２．研究の目的

本研究の目的は、Self-Transcendence 理論をもとに構築した理論的枠組みの検証を行うことである。具体的には、脆弱性、自己超越性、ウェルビーイングと個人的因子の関係性を検証し、看護師が成長する過程における自己超越性の役割と、その成長に影響を与える因子について明らかにすることを目的とする。

３．研究の方法

(1)研究デザイン

本研究の研究デザインは量的記述的研究である。

(2)研究対象

西日本の地方都市における 200 床以上の病院で本研究に協力を得られた 3 施設に勤務する看護師を対象とした。対象者の選定条件としては、一般病床（精神病床、感染症病床、結核病床及び療養病床を除く）に勤務し、新卒から卒後 6 年目（臨床経験が 0~5 年間）の正看護師とし、対象者の年齢及び卒業した学校の種類は問わないとした。

(3)調査項目

本研究における調査項目及び使用した質問紙は以下の通りである。

① 対象者の属性、脆弱性

高齢者用の脆弱性アセスメント用に作成された尺度（Hoshi、 2008）をもとに、本研究における対象である看護師の属性把握と脆弱性のアセスメントのために修正を加え、新たな調査票を作成し使用した。脆弱性については、本研究の対象が看護師であるため正看護師としての臨床経験年数を指標とした。

② 自己超越性

自己超越性については、心理社会的自己超越性を Japanese Self-Transcendence Scale（JSTS）(Suzuki & Reed、 1999）で、またスピリチュアルな自己超越性を Japanese Spiritual Perspective Scale（JSPS）(Hoshi & Reed、 2008）を用いて指標とした。どちらも本研究の対象者に合わせて項目を修正・追加した。JSTS は 16 項目で構成され、「全くない」「少しそうである」「多少はそうである」「いつもそうである」の 4 段階で評価する。JSPS は 18 項目で構成され、「全くなし」～「1 日に 1 回」、または「全くそう思わない」～「強くそう思う」までの 6 段階で評価し、JSTS も JSPS も合計点が高いほど自己超越性が高いと判断した。また、英語版の SPS は合計得点を項目数で割った数値を得点とするが、本研究における JSPS は集計した合計点をそのまま得点とした。

③ ウェルビーイング

本研究では文献検討の結果から、看護師のウェルビーイングの指標として、自尊感情、自我同一性、Nursing Competency、 バーンアウトを用いた。

自尊感情については山本・松井・山成(1982)らが翻訳した自尊感情尺度を用いた。自尊感情尺度は 1 次元 10 項目で構成され、「あてはまならい」～「あてはまる」の 5 段階で評価する。

自我同一性については加藤(1983)によって開発された同一性地位判定尺度を用いた。この尺度には、3 つの下位尺度（現在の自己投入、過去の危機、将来の自己投入の希求）があり、それぞれに 4 項目ずつ計 12 項目で構成される。評定は「全然そうではない」～「まったくそのとおりだ」の 6 段階で、得点によって判定基準があり、エリクソンのいう同一性（アイデンティティ）を個人がどの程度達成しているかを容易に判定することができる。

バーンアウトについては久保・田尾（1992）がマスラックとジャクソンに準拠して作成したバーンアウト尺度を用いる。この尺度は情緒的消耗感、脱人格化、個人的達成という 3 因子から構成され、計 17 項目あり、「ない」～「いつもある」の 5 段階で評価する。点数が高いほど、バーンアウトが顕著であると判定される。自尊感情尺度、同一性地位判定尺度、バーンアウ

ト尺度については信頼性と妥当性が確立されている。

Nursing Competency については、本研究用に Clinical Nursing Competency 尺度を作成し使用した。Clinical Nursing Competency 尺度については、国内外の Competency や看護実践能力に関する文献をもとに概念分析を行い、臨床で働く一般的な看護職のその所属部署における Competency を測定することを目的に 25 項目を精選し作成した。本尺度については、看護教育に携わる様々な分野の看護系大学教員で検証して概念規定と質問項目の選定を行い、また看護系大学教員・看護管理者・看護師らによる内容的妥当性検証により内容的妥当性については確保された。

④ 個人的因子

個人的因子としては、Lucas et al.、(2008)が看護師のエンパワーメントや離職予防に効果的であると報告している情動知能（Emotional Intelligence）を選択した。情動知能に関しては、豊田と山本（2011）の日本版 Wong and Low Emotional Intelligence Scale（WLEIS)を使用した。日本版 WLEIS は 16 項目からなり、情動の調節、自己の情動評価、情動の利用、他者の情動評価の 4 つの下位項目に分かれている。それぞれ「全くあてはまらない」～「非常にあてはまる」の 7 段階で評価する。点数が高いほど、情動知能が高いと判定した。

本研究で使用する尺度については全て使用許可を得ている。

(4)データの収集方法と手順

所属施設の倫理審査委員会の承認を受けた後、条件を満たす病院に研究協力を依頼した。対象者の抽出については恣意的標本抽出法（Convenience sampling）を用い、研究協力の承諾を得られた病院の看護部長に、選定基準を満たす正看護師の紹介を依頼し、本研究の対象候補者に、看護部または各部署の責任者を通して研究説明書、返信用封筒とともに質問紙を配布し協力を依頼した。質問紙の回収は、切手貼付済みの返信用封筒を用い郵送にて行った。

(5)データの分析方法

収集したデータは、記述統計を用いて対象やデータ全体の概観や分布を確認後、各質問紙の信頼性について確認をした。その後、脆弱性、自己超越性、ウェルビーイング及び個人因子の関係性についてピアソンの相関係数を用いて分析した。

４．研究成果

(1)対象者の概要

205 名の看護師から回答を得た。対象者の属性については表１に示す。

対象者の平均年齢は 25・5 歳（SD3.05 歳）であり、女性が 190 名、男性が 14 名と 9 割以上が女性であった(無回答１名)。

表１．対象者の属性（N=205）

項目		度数（%）	範囲	平均値（標準偏差）
年齢				25.5（3.05）
性別	女性	190（92.7）		
	男性	14 （6.8）		
正看護師としての経験年数			1－6	3.22（1.71）
	新卒	47（23）		
	卒後 2 年目	34（17）		
	卒後 3 年目	27（13）		
	卒後 4 年目	36（18）		
	卒後 5 年目	37（18）		
	卒後 6 年目	21（10）		
今までに所属した部署の数	1	93（45）		
	2	77（38）		
	3	17（8）		
	4	7（3）		
	5	3（2）		
	5 以上	不明（2）		
今まで勤務した病院数	1（	152（74）		
	2	31（15）		
	3	15（7）		
	4	2（1）		
	不明	5（2）		

対象者の平均年齢は 25・5 歳（SD3.05 歳）であり、女性が 190 名、男性が 14 名と 9 割以上が女性であった(無回答１名)。正看護師としての経験年数の平均は 3.2 年（SD1.71 年）であり、新卒看護師が 47 名（23%）と一番多かった。また、独身者が 172 名（84%)、既婚者が 26 名(13%)、離婚歴ありが 5 名（2.4%）であった。

（2）質問紙の信頼性

本研究用に開発した Clinical Nursing Competency 尺度の信頼性係数は 0.96 であり、初回使用の尺度としては十分な信頼性があることが明らかになった。また、自己超越性の指標としての JSPS の信頼性係数は 0.92、JSTS は 0.85 であった。ウェルビーイングの指標として使用した尺度では、自尊感情尺度が 0.86、バーンアウト尺度の情緒的消耗感 0.82、個人的達成感 0.82、脱人格化 0.89 という結果であった。同一性地位判定尺度(自我同一性の指標)の信頼性係数は尺度全体としては 0.73 であり、下位尺度である現在の自分への自己投入は 0.75 であったが、将来の自己投入への希求は 0.43、過去の危機については 0.38 という結果であった。

個人的因子の１つである情動知能の指標としての日本版 Wong and Low Emotional Intelligence Scale（WLEIS)の信頼性係数は 0.90 であった。

信頼性係数の分析から、本研究で用いられた尺度について、ほとんどのものが十分な信

頼性があることが明らかになった。

（3）各変数の記述統計

尺度を用いて測定した各変数の記述統計については表 2 に示す。

表 2. 各構成概念の得点範囲、平均値、標準偏差（N=203）

変数	得点範囲	平均値（標準偏差）
自己超越性		
JSPS	29-101	56.5（12.69）
JSTS	25-64	44.5（6.94）
自尊感情	11-48	30.3（6.14）
自我同一性	17-71	45.9（6.51）
現在の自己投入	4-24	14.7（3.32）
将来の自己投入への希求	4-24	15.6（2.49）
過去の危機	7-23	15.7（2.70）
コンピテンシー	70-144	109.0（15.52）
バーンアウト		
情緒的消耗感	7-25	17.5（4.42）
脱人格化	6-30	13.3（5.23）
個人的達成	6-30	14.6（4.32）

（4）各変数間の相関関係

脆弱性と自己超越性、自己超越性とウェルビーイング、そして自己超越性と情動知能の関係についてピアソンの相関係数を用いて分析を行った。

① 脆弱性と自己超越性

本研究では、正看護師としての臨床経験年数を脆弱性の指標としたが、正看護師としての臨床経験年数と自己超越性では、スピリチュアルな自己超越性との間に正の有意な相関が見られた（r=0.15、p<0.05）。

② 自己超越性とウェルビーイング

スピリチュアルな自己超越性については、自我同一性の現在の自己投入（r=0.31、p<0.01）、将来の自己投入の希求（r=0.24、p＜0.01）、過去の危機（r=0.23、p＜0.01）、コンピテンシー（r=0.22、p<0.01）、そしてバーンアウトの個人的達成感（r =0.20、p＜0.01）と正の相関があることが明らかになった。

心理社会的な自己超越性については、自我同一性の過去の危機を除いて全て有意な相関関係があることがわかった。また、自尊感情（r=0.51、p＜0.01）、自我同一性の現在の自己投入（r=0.64、p＜0.01）及び将来の自己投入の希求（r =0.44、p＜0.01）、バーンアウトの個人的達成感（r=0.47、p＜0.01）、については正のかなり強い相関が、バーンアウトの情緒的消耗感と脱人格化においては負の相関があることが明らかになった（rs=0.28、ps＜0.01）。

③ 個人的因子

個人的因子として本研究では情動知能を指標としたが、情動知能は自己超越性とウェルビーイングの変数について、自我同一性の過去の危機を除いて、全ての変数とかなりの相関があることが明らかになった。特に心理社会的な自己超越性、自我同一性の現在の自己投入、そしてコンピテンシーについては相関係数が全て 0.50 以上という結果であった。

本研究は地方都市の 3 施設の看護師を対象とし、正看護師としての臨床経験年数を脆弱性として検証を行ったが、臨床経験年数とスピリチュアルな自己超越性との相関は明らかになったが、心理社会的な自己超越性との相関関係についてはあまり強い相関が見られなかった。しかし、心理社会的自己超越性が看護職のウェルビーイングと関係性があることは明らかとなり、またその自己超越のためには、情動知能が重要であるという示唆を得た。今後は、本研究結果の更なる分析とともに、この結果をもとに、看護職の健やかな成長に関係する自己超越性や情動知能を伸ばすために、どのような教育が有効であるかについても明らかにすることが必要である。

＜引用文献＞

Erikson、 E.H. (1986). *Vital Involvement in Old Age*. New York; Norton

Frankl、 V.E. (1963). *Man`s Search for Meaning*. New York: Pocket Books

Hoshi、 M. (2008). *Self-Transcendence、Vulnerability and Well-being in Hospitalized Japanese Elders*. Unpublished doctoral dissertation、 University of Arizona、 Tucson、 AZ

加藤厚. (1983). 大学生における同一性の諸相とその構造. 教育心理学研究、31、292-302

久保真人・田尾雅夫. (1992). バーンアウトの測定. 心理学評論、35、361-376

Reed、 P.G. (1991). Toward a theory of self-transcendence: Deductive reformulation using developmental theories. *Advances in Nursing Science*、13(4)、 64-67

Reed、 P.G. (2008; 2012). The Theory of Self-Transcendence. In Smith、 M.J. & Liehr、 P.R. *Middle Range Theory for Nursing*、(pp.145-166). New York: Springer

Reed、 P.G. (2009). Demystifying Self-Transcendence for Mental Health Nursing Practice and Research. *Archives of Psychiatric Nursing*、 *23*(5)、 397-400

豊田弘司・山本晃輔.(2011).日本版 WLEIS（Wong and Law Emotional Intelligence Scale）の作成. 教育実践総合センター研究紀要、20、7-12

Lucas、V.et al (2008). The impact of emotional intelligence leadership on staff nurse empowerment. *Journal of Nursing Management*、 *16*、 964-973

山本真理子・松井豊・山成由紀子. (1982). 認知された自己の諸側面の構造. 教育心理学研究、30、64-68

５．主な発表論文等

〔雑誌・論文〕（計０件）

〔学会発表〕（計１件）

1) Miwako Hoshi、 Concept Analysis of Nursing Competency from Japanese Perspective、平成24年7月13･14日、Sigma Theta Tau International Honor Society of Nursing 23rd International Nursing Research Congress: Creating a Legacy Through Nursing Research 、Innovation and Global Collaboration、Brisbane、 Australia

６．研究組織

(1)研究代表者

星　美和子（HOSHI, Miwako）
長崎大学医歯薬学総合研究科(保健学科)・准教授
研究者番号：70433133